

紀伊半島南部には熊野古道と呼ばれる熊野信仰の道が整備されて残っています。熊野古道は、伊勢・吉野・京都などから熊野三山に参るための道で、紀伊半島西回りの「紀伊路」（平安時代から鎌倉時代が中心）と東回りの「伊勢路」（江戸時代以降）に代表されるコースが何本もあります。

紀伊半島南部は山が海岸線に迫り険しい山道が続きます。いくつもの峠越えが続く熊野詣はまさに苦行で、道が崩れたり土砂が流出しないようにと石が敷かれた狭い山道を一列になって歩きました。それがアリの行列にたとえられ、「蟻の熊野詣」と呼ばれていました。



熊野古道 三重県紀伊長島町

三重県熊野市波田須にも熊野古道が残っています。鎌倉時代の道とされ、苔むした石畳が静かに旅人を待っています。



熊野古道 三重県熊野市波田須

三重県熊野市波田須（はたす）は、もとは「秦住」と書かれており徐福の上陸地点であり、徐福が住み着いた場所でもあります。日本での徐福やその子孫は「徐」の姓を使わず、故国の「秦」から波田、波多、羽田、畑など「ハタ」と読む漢字をあてて名乗っていたようです。

大船団で船出した徐福は嵐にあい三重県熊野市の波田須（はたす）・矢賀（やいか）の磯に流れ着きます。当時ここには3軒しか家がなかったそうです。



波田須